

お姫様はきれいな物が大好き
でした。

おかし、あるところに
お姫様がいました。

ぷりんせすものがたり
プリンセス物語



げんあん さくが じー みん ひー
原案、作画：ジー・ミンヒー

ぶん へんしゅう すがわらひろこ
文、編集：菅原浩子



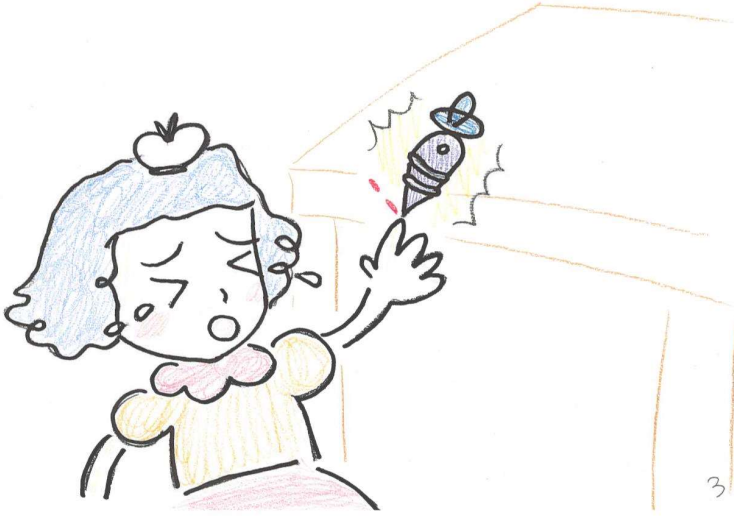
ある日、お姫様はお城の高いところに上りました。

いちばんうえ　へや　どあ　あ
一番上の部屋のドアが開いていました。
へや　なか　だれ
でも、部屋の中には誰もいませんでした。

ひめさま　へや　はい
お姫様は部屋に入りました。

そして、きれいなナイフを見つけました。

「わー、きれい！」



「あっ、痛い！」
ひめさま　ないふ　で　き
お姫様はナイフで手を切りました。

ひめさま　ないふ　お
お姫様がナイフを落としたので、
ないふ
ナイフがだめになりました。



5

まじょ
魔法はとても怒って、お姫様に魔法を
つか
使いました。

まほう
魔法でお姫様は五百年間眠りました。



「どうしてここにいるんだ！」

なに
何をした！」

ひめさま
お姫様とナイフを見て魔法が大きい声で言
いました。

まじょ
ここは魔法の部屋でした。

まじょ
魔法が部屋に帰ってきたのです。

ないふ
ナイフは魔法の大切な物でした。



もり なか おお いえ
森の中に大きい家がありました。

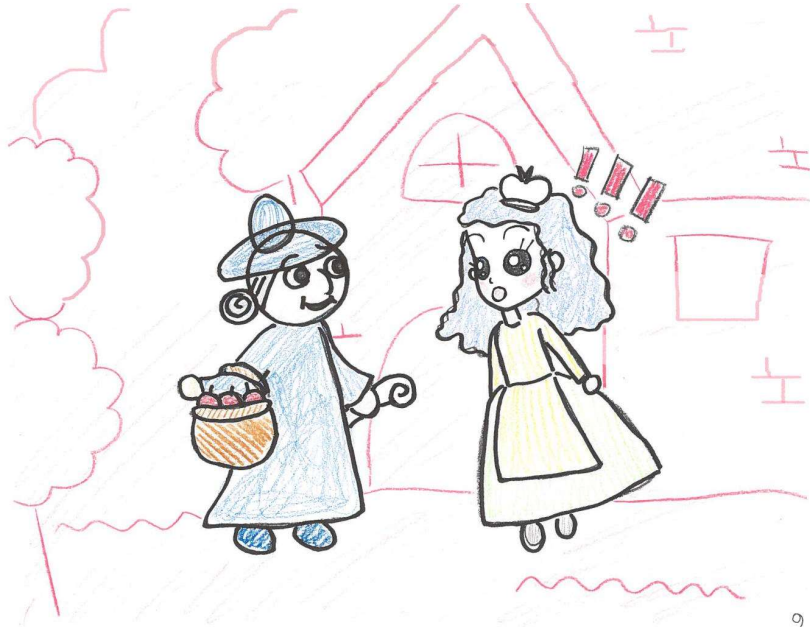
ひめさま ひどり もり なか
お姫様は一人で森の中をずっと
あゝ
歩きました。



ごひやくねんご ひめさま お
五百年後、お姫様は起きました。
でも、お父さんもお母さんもいま
と
せん。
ひめさま いえ
お姫様の家ありません。



その家には七人の小人が住んでいました。
 しちにん こびと ひめさま
 七人の小人はお姫様がかわいそうだと思
 いました。
 ひめさま
 「きれいなお姫様、どこから来たんです
 か」
 いえ
 「私は家がありません。家族もいません」
 ひめさま きょう わたし
 「お姫様、今日から私たちといっしょに
 この家に住みましょう」
 こびと
 「小人さん、どうもありがとう」
 ひめさま はん つく
 お姫様はご飯を作ったり洗濯をしたりし
 て、小人の家の仕事を手伝いました。
 ひめさま しちにん こびと たの
 お姫様と七人の小人は楽しく暮らしまし
 た。



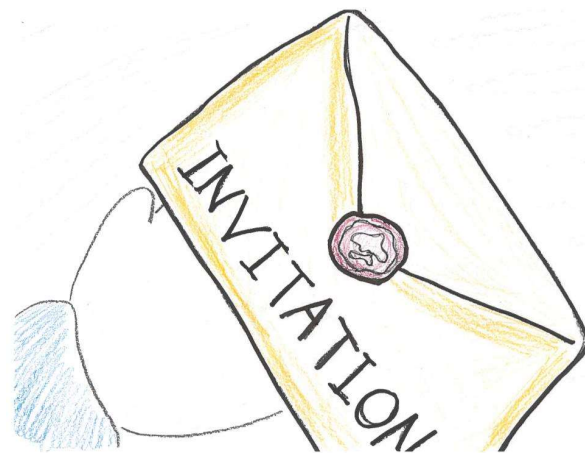
ある日、小人が仕事に行っている時
 に、魔女が家に来ました。

お姫様はびっくりしました。



すると魔女は、
だいじょうぶ 大丈夫。私が魔法でドレスも馬車も
くっ 靴も出してあげるよ」と言いました。

「まあ、ありがとう。
わたし でも、私にはドレスも馬車もきれいな
くっ 靴もないんです」
ひめさま お姫様が言いました。



「あの時はあんなに怒ってごめんなさい。
こんばん 今晩お城で大きいパーティーがあるよ。
ば、てい パーティーに行きたい？」

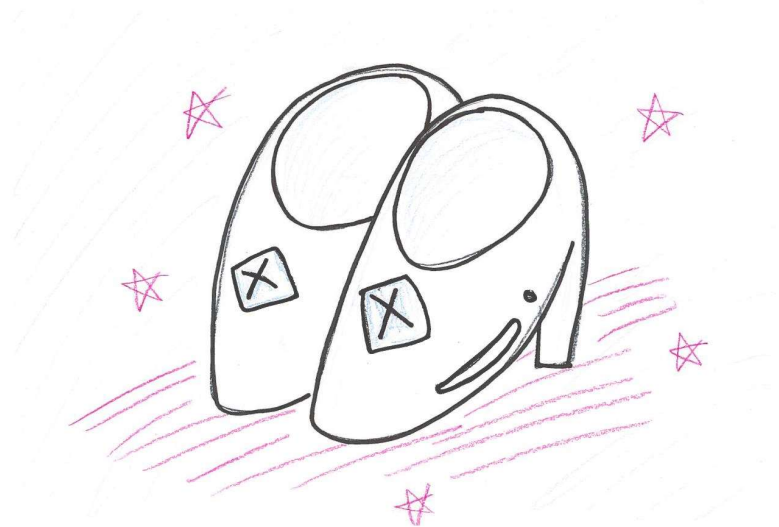
魔女はお姫様に言いました。



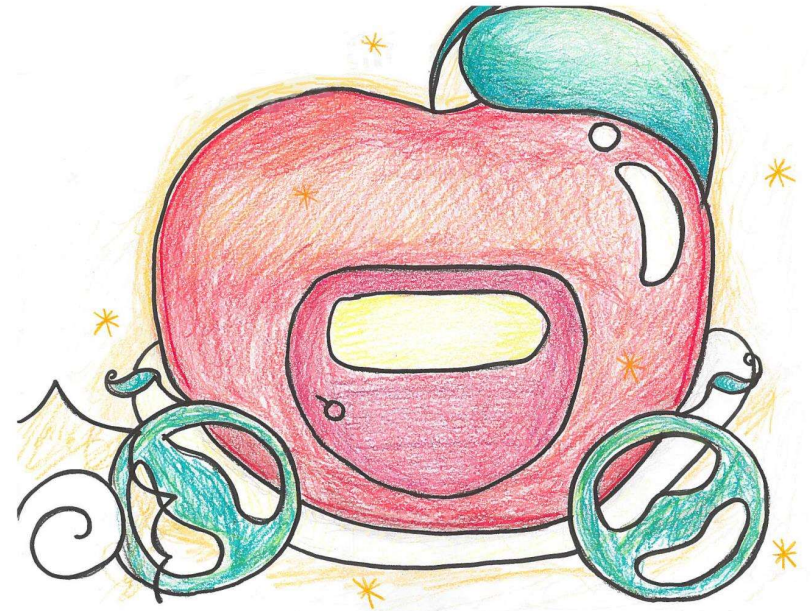
つぎ まほう
次に魔法でうさぎを立派な馬に
しました。



まじょ まほう
まず魔女は魔法できれいなドレスを
作りました。



さいご
最後に、お姫様の靴をピカピカの
ガラスの靴にしました。



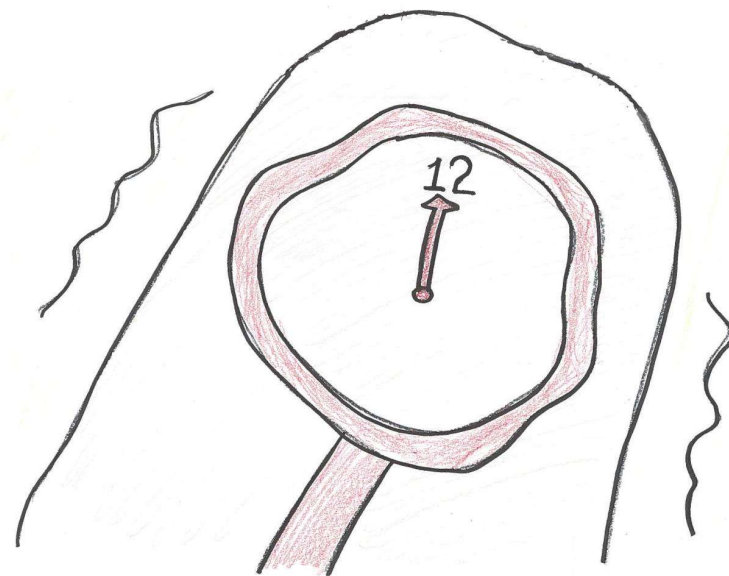
それから赤いりんごを大きくてきれ
いな馬車にしました。



17

お姫様はお城のパーティーに行きました。
 ハンサムな王子はきれいなお姫様を見て、大好きになりました。
 そして二人は楽しくダンスをしました。

17

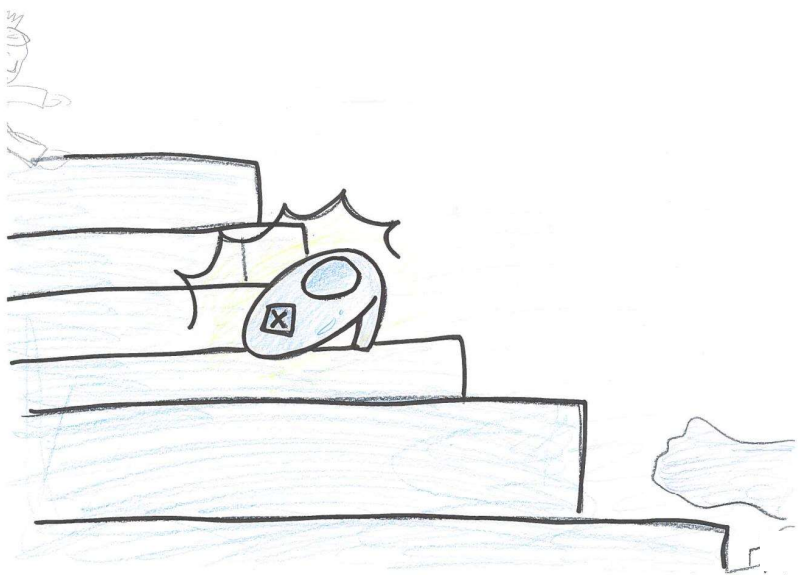


16

「まあすごい。どうもありがとう！」
 お姫様が言いました。

「でも、この魔法は夜十二時には終わってしまう。その前に家に帰らなきゃいけないよ」
 魔女が言いました。

16



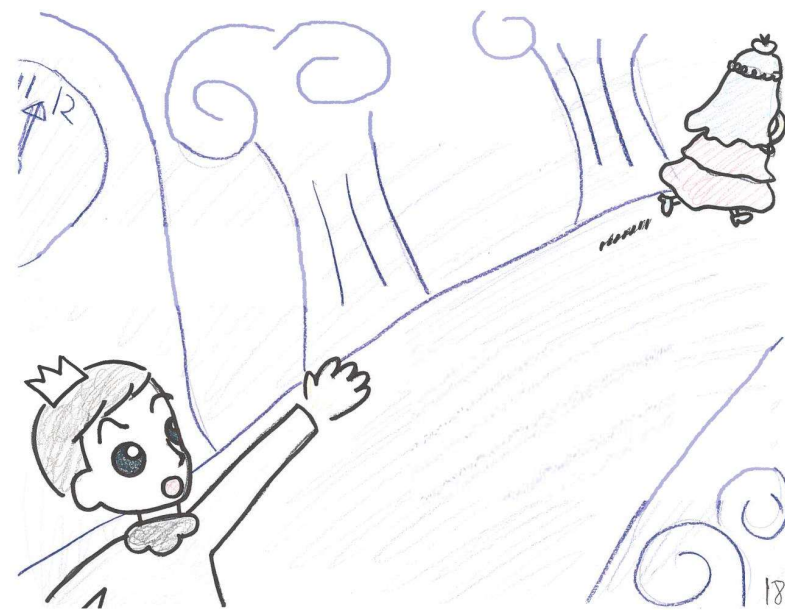
でも、お城の階段に、お姫様のガラスの靴が落ちていました。

19

お姫様はもうどこにもいませんでした。

王子はお姫様の後を追いかけてきました。

「お姫様、待って！」



お姫様は急いでお城から出て行きました。

「私はもう帰らなければいけません」

もうすぐ十二時です。

時計を見たらもう十一時五十分になっていました。

18



21

お姫様もガラスの靴を履きました。
ひめさま がらす くつ は
 このお姫様だけ、ガラスの靴が履け
ひめさま がらす くつ は
 ました。



ある日お姫様は町に出かけました。
ひ ひめさま まち で
 町の中にたくさんポスターがありました。
まち なか ほすたー
 「これは誰の靴ですか」
だれ くつ
 町の女の人たちがガラスの靴を履き
まち おんな ひと がらす くつ は
 ました。でも、靴は小さかったです。
くつ ちい



その後、二人は結婚して、
いつまでも幸せに暮らしました。



お姫様も王子にまた会えてとても喜
びました。

お姫様を見つけて王子は喜びました。

この物語のイラストと原作は、 USC 2013 年秋学期 Extensive Reading in Japanese II のクラスの
ジー・ミンヒーさんの作品です。

SC Tadoku Book series are created by the Japanese instructors in Southern California. The project is
sponsored by USC Department of East Asian Languages and Cultures and USC East Asian Studies Center.